

「大草原！わんぱく親子塾」

- 【主催】 国立阿蘇青少年交流の家
 【共催】 熊本県立菊池少年自然の家
 【後援】 熊本県教育委員会・熊本市教育委員会・大津町教育委員会
 菊陽町教育委員会・阿蘇市教育委員会
- 【期間】 【夏 編】 平成24年7月7日(土)～7月8日(日) 1泊2日
 【川 編】 平成24年9月1日(土)～9月2日(日) 1泊2日
 【秋 編】 平成24年10月6日(土)～10月7日(日) 1泊2日
 【収穫編】 平成24年10月14日(日)
- 【実施場所】 国立阿蘇青少年交流の家及びその周辺、熊本県立菊池少年自然の家
- 【参加者】 【夏 編】 保護者39名、幼児34名
 小学生8名、乳児2名、ボランティア8名
 計91名
 【川 編】 保護者42名、幼児42名
 小学生13名、乳児2名
 ボランティア10名
 計109名
 【秋 編】 保護者30名、幼児31名
 小学生7名、乳児2名
 ボランティア9名
 計79名
 【収穫編】 保護者19名、幼児19名
 小学生5名、乳児2名
 計45名
- 【講師】 【夏 編】 歌手 Kenshiro 氏
 研修指導員 篠田 美恵 氏
 研修指導員 市原 正 氏
 【川 編】 国立阿蘇青少年交流の家 次長
 道喜 智昭 氏
 【秋 編】 コミュニケーションマナー
 アドバイザー 桑原たか子 氏
 研修指導員 古澤 順正 氏



ヤマメのつかみ取り



南阿蘇自然散策

1 趣 旨

独立行政法人国立青少年教育機構においては、青少年の意欲や社会性、規範意識など豊かな子どもたちの社会性や豊かな人間性を育むための自然体験活動等のプログラム開発を行っている。現在、核家族化や地域の希薄化に伴い、保護者自身の体験活動が不足していたり、保護者自身が子育てについて不安に思っていたりしている。

そこで以下の点を大事にして、この事業を進めていきたい。

- ① 幼児期の頃から自然体験や生活体験を多く経験することの大切さを、保護者に理解させる。

- ② 保護者に自然体験・生活体験を，子どもとともに十分に楽しんでもらう。
- ③ 交流の家が，保護者同士で，子育てについて話し合う場を提供する。

幼児の視点から見ると，豊かな人間性の育成を図る上では，低年齢時にさまざまな自然体験・生活体験を行うことがより大切になってくる。そこで幼児期に体験活動を十分に味わわせ，感性を育てていきたい。そしてこの活動を十分に味わわせることが，小学校時にも役立つと推測できる。

2 目 標

- 保護者に幼児期の頃から自然体験や生活体験を多く経験することの大切さを理解させる。
- 保護者に自然体験・生活体験を，子どもとともに十分に楽しんでもらう。
- 保護者同士が，子育てについて話し合う場を提供することで，絆を深める。



3 事業展開

(1) 研修プログラム

【夏編】

日 程	午前	午後	夜
7/7(土)	10:00受付 ○開会式 ○アイスブレイキング	○テント設営 ○農業体験 (じとうきび種まき)	○野外調理 (七夕そうめん カレーライス) ○子育てコンサート (保護者) ○看板作り 花火 (子ども)
7/8(日)	○テント片付け ○親子ウォークラリー ○閉会式 11:30～		

【川編】

日 程	午前	午後	夜
9/1(土)	10:00受付 ○開会式	○ヤマメのつかみ取り ○野外調理 (うどん・炊き込みごはん作り)	○キャンプファイヤー
9/2(日)	○意見交流会 (保護者) ○チャレンジランキング (子ども) ○閉会式11:00～		

【秋編・収穫編】

日 程	午前	午後	夜
10/6(土)	8:50 受付 ○開会式 ○南阿蘇自然散策 (天然水の森)	○まこもだけ収穫	○子育て講演 (保護者) ○木の実を使った工作 (子ども)
10/7(日)	○野外調理 (ピザ作り)	○閉会式 13:00~	
10/14(日)		○じとうきび収穫	

(2) 目標達成のための工夫

① 保護者に自然体験・生活体験を、子どもとともに十分に楽しんでもらう場の設定

ア 季節の特色を生かした体験活動の実施

夏編では、事業日が7月7日ということもあり、草原の良さを感じてほしいという願いから、テント泊を計画した。当日は昼まで、雨であり、室内テントの予定であったが、天候も回復し、参加者の強い要望で実施した。また「夏だ！元気に食べて、阿蘇の王子様とお姫様になろう！」というキャッチフレーズのもと、阿蘇の食材を生かした夏野菜カレー、竹のうつわを使っの七夕そうめんを実施した。

川編では、阿蘇で体験できないヤマメのつかみ取りを、菊池少年自然の家と連携し、計画した。また菊池には阿蘇を源流とする菊池川が流れており、その川の水を使った手打ちうどん作りも行った。

秋編では、親子で秋を感じてほしいという思いから、南阿蘇自然散策を行った。南阿蘇自然散策においては、どんぐりや松ぼっくりなどを拾いながら、秋の自然を満喫できるようにした。

イ 親子でともに楽しめるプログラムの実施

夏編では、ウォークラリーを行った。その際、幼児が楽しめるように動物を見つけるワークシートを用意した。ポイントごとにボランティアを置き、子どもが動物を見つけて、その動物の名前を口に出すと、シールを貼る形を意欲付けのために行った。また全部の動物を見つけると別に合格シールを用意し、子どもたちのさらなる意欲付けを行った。また同時に自然に興味を示すために、自然に関する言葉集めを同時並行で実施した。川編では、①アでも書いたとおり、手打ちうどん作りを行った。親子で一緒に材料をこねたり、切ったりして協力して楽しめるように工夫した。

② 保護者同士で、子育てについて話し合う場を提供するプログラムの工夫

ア 保護者向けの子育てコンサートの実施

夏編では、子育てを一生懸命されている保護者の方々に応援するために、子育てコンサートを用意した。保護者の方々に勇気づける歌詞の中身になるように、KENSUHIRO氏にお願いした。リラックスした状態で聴きながら、保護者同士の関係が少しずつ和らいでいくようにするとともに、場の雰囲気をあたたかいものにしていった。

イ 保護者向けの意見交流会の実施

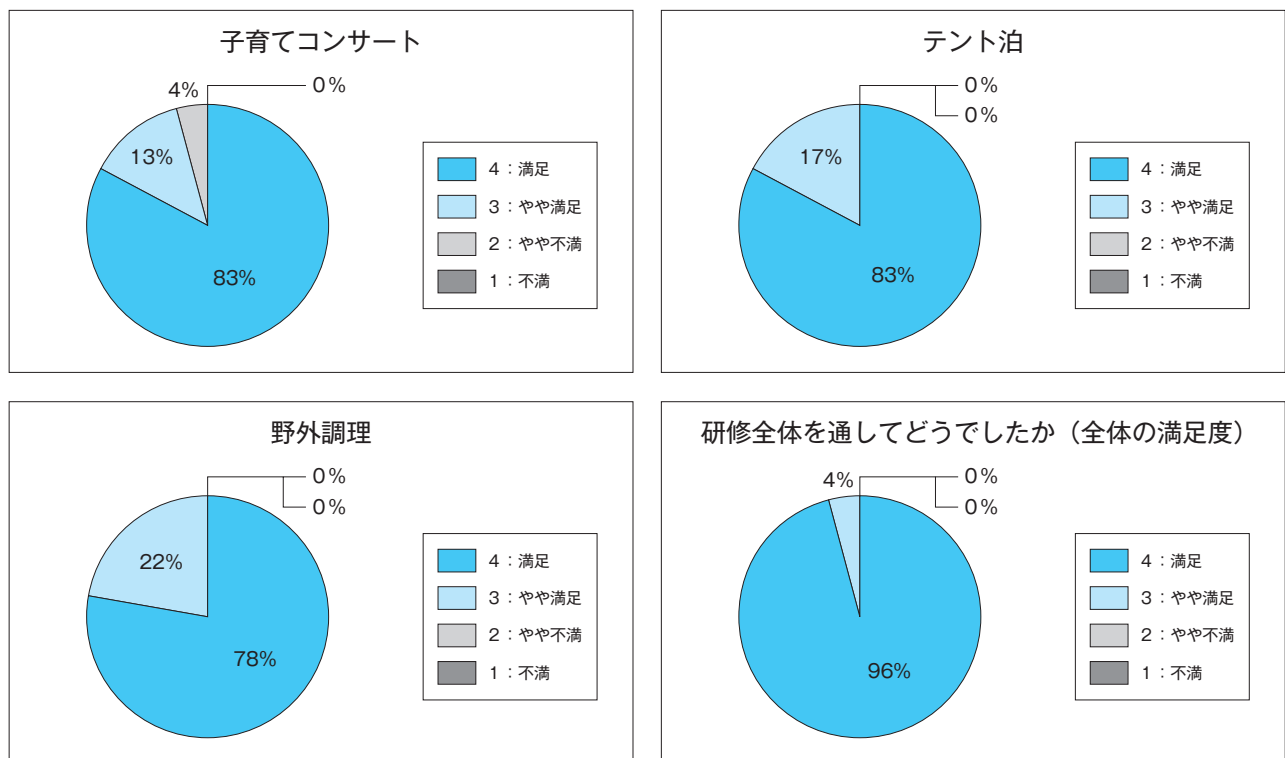
川編では、講師に当交流の家の次長を招き、保護者同士が日頃の子育ての悩みが自然とできるように、ワークショップ型の意見交流会を実施した。またすぐに本題に入るのではなく、講師と保護者の信頼関係を作りながら、段階的に話し合いへと進めていった。

秋編では、講師に桑原氏を招き、自分の子育てがどんなものだったかの経験を踏まえた話をお願いした。

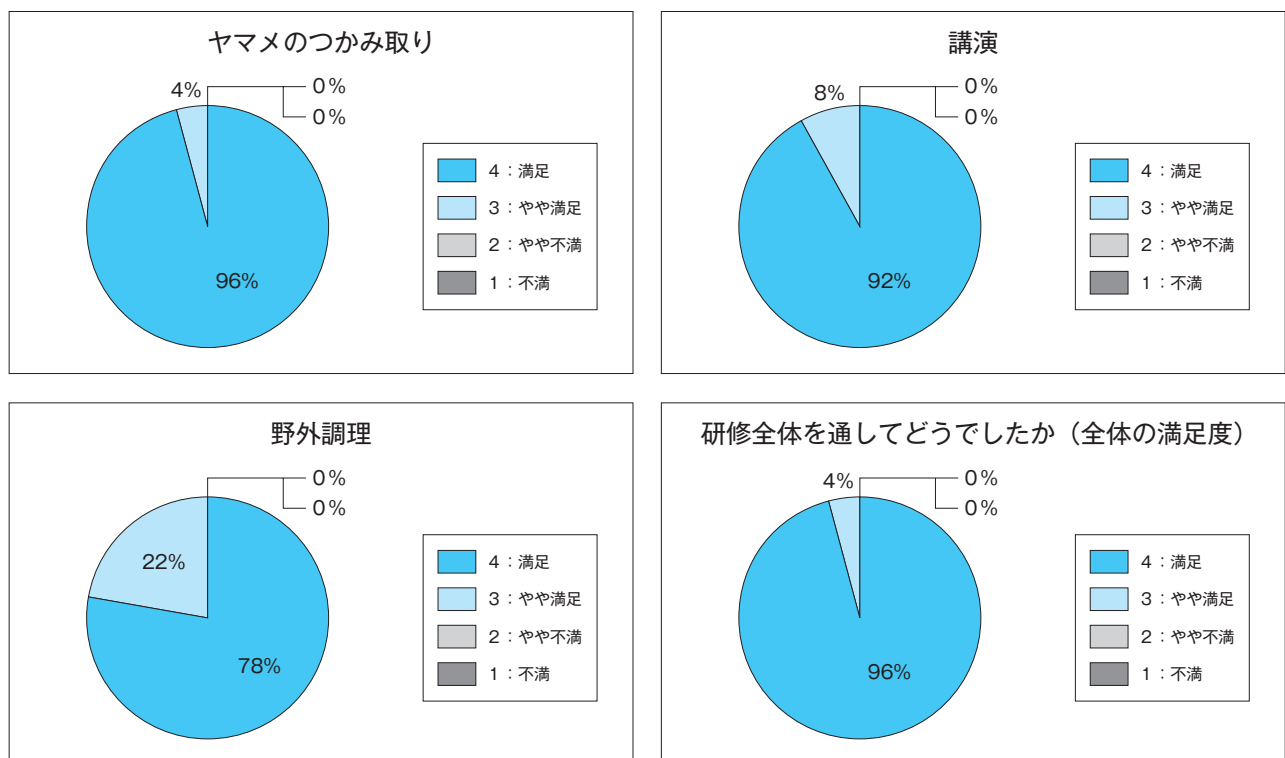
4 結果

参加者の事後アンケート結果は以下のとおりである。

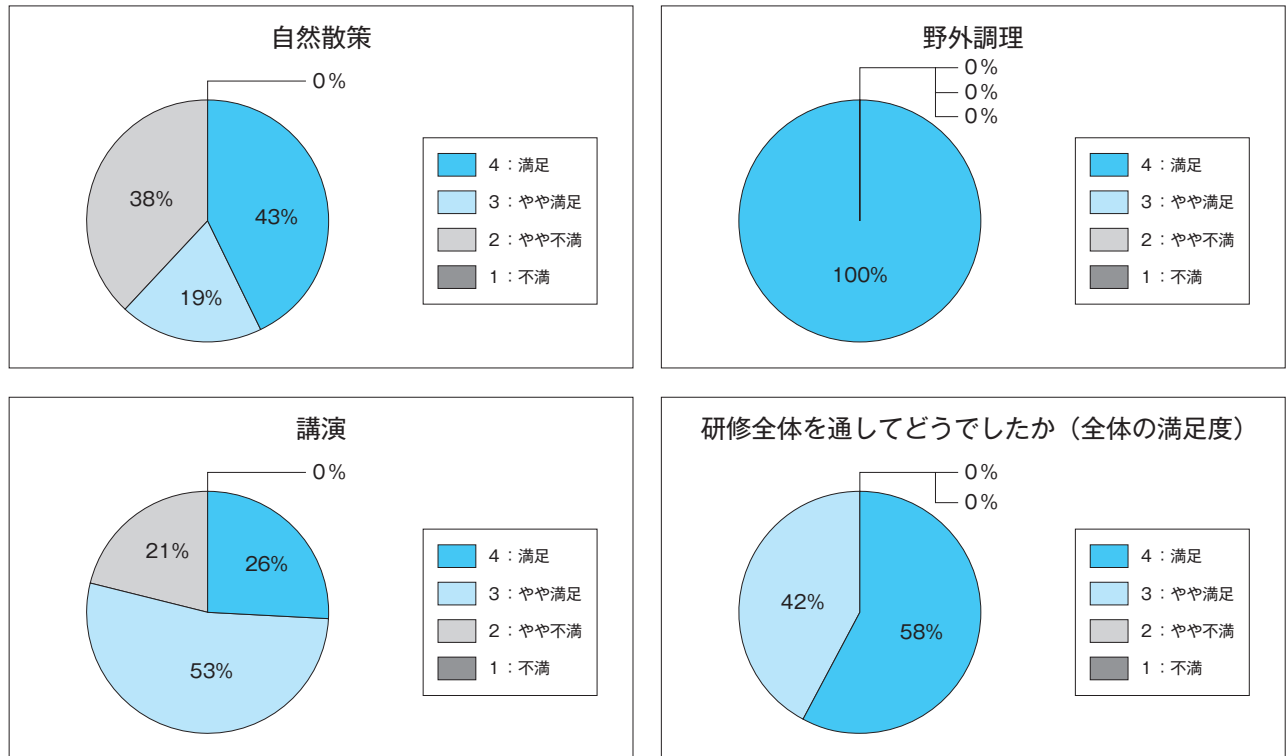
【夏編】



【川編】



【秋編】



【参加者の声】

- 普段体験できないことが出来て、大変楽しかった。
- テントに泊まったのが初めてだったから、今日泊まってよかったと思った。
- ヤマメのつかみ取りでは、命の大切さを教えてもらい、子どもの命や食に対する思いも少し変わったのではないかと考えた。
- プログラムの中に父親同士が話す機会があるのは良いと感じた。
- ドングリや松ぼっくりを拾いながら自然散策ができた。

5 成果と課題

(1) 成 果

- ① 事後アンケートの結果、「研修全体を通してどうでしたか？」という質問に、夏編・川編・秋編を通じて満足・やや満足という意見が大変多かった。このことから3回シリーズをとおして、親子ともに楽しめることができた。
- ② 子育てコンサート・講演では、「子どもと離れて、リラックスした状態で癒やされる歌声が聞けた。」「生歌が大変良かった。」という意見や「3回の講演を通して、子育ての大切さがわかった。」などといった感想もみられた。保護者同士で、子育てについて話し合う場となる貴重な場となった。
- ③ 親子ウォークラリーでは、親子で協力しながら、ポイントを目指していたので、親子とも楽しんでいる様子であった。子どもは動物や自然に興味をもち、ワークシートに一生懸命に記入している姿が見られた。

野外調理では、季節の特色を生かした調理を行ったことで、参加者も楽しみながら、親子で取り組んでいる姿がみられた。調理ができたときには、満面の笑みで写真を撮っている様子があった。このようなことから、保護者に自然体験・生活体験を、子どもとともに十分に楽しんでもらう場

となった。

(2) 課 題

- ① 秋編の自然散策では、散策距離が長かったため、参加者の負担となった。また、事業の趣旨を講師の方に十分に伝えることができなかった。